

— 高校入試は苦勞しましたか —
僕は、苦しまなかったかなと思います。ずっと野球をしてきて、部活をしている分、勉強時間が足りなくなるので、授業を大切にしていました。
中3で部活を引退した後も、焦ることなく高校入試に挑めました。
— 勉強で大切にしていることは何ですか —
小学生の時から普段の授業をわからないままにしておくのが嫌でした。

特別編 高校入試体験記
合格体験記
年が明ければすぐにやってくる入試。中学3年生も、高校入試にむけた勉強で忙しい。今回の文通は、野球をしながら文理科を受験した高校一年生の永吉さんに中学時代の体験や、高校生になった思いを聞きました。



文通

アナタと文理科をつなぐ

れいめい文理科通信

2022 / NOV DEC

どうせやるなら 楽しい方がいい

嫌でした。どうせしないといけないなら、わかったほうがぜったい楽しいじゃないですか。勉強してて楽しいのって、わかった時だと思うので、わからないことがあるままにしておくのが嫌でした。



— れいめいに入学を決めた理由を教えてください —
オープンスクールで決めました。授業を受けた先生の話がわかりやすくて、楽しくて良い雰囲気もあったので、やりやすい環境で学べると思いました。

— 現在の学習について教えてください。 —
中学までと違って、内容も難しくなっていますし、課題に取り組んでおかないと理解も遅れていきます。授業を楽しい時間になりたいという思いは変わらないので、自主学習の時間も大事にするようになりました。
寮では、文理科で学習に励む先輩たちもいるので、刺激になります。



— 後輩へのアドバイスをお願いします —
とにかく授業をしっかり受けて、わからないことはわからないままにしないことだと思います。僕は将来の夢はまだ決まっていますが、いざというときに学力が足りないってことがあると嫌なので、今頑張りたいと思っています。

イベント御礼

オープンスクールへのご参加ありがとうございました！！

文理科の学科説明では卒業生の大良さんと後藤さんをお招きして、文理科の授業についてお話をしました！
文理科の授業の説明に加えて、地元、鹿児島大学で活躍する二人から、文理科でのリアルな体験を紹介してもらいました。
文理科では、各教科の教員が「大学進学、そしてその先を見据えて」個々の能力を伸ばす授業づくりに取り組んでいます。



高校入試直前！気になること、不安なことなどあれば対応いたします。
文理科の入試・学校生活などへのご質問・ご相談はお電話で！ ※～平日17時

文理科通信「文通」は、高校進学を目指す中学生の皆さんに、現役大学生や高校生の姿をお知らせする広報紙です。
バックナンバーはホームページから▼

このコーナーは文理科に通う「ユフ青年」が、放課後に中高生の研究や青春を取材して、見聞を広めるとても志の高いコーナーなのである。「ゆふかげ」とは夕暮れ時の光を意味する古語である。

ユフ青年

くわはた
カメラマン

「小原センパイと川内川治水工事」

小原センパイは「異常気象から考える川内川に必要な治水事業」について研究していた。他の先輩たちに比べても圧倒的な分量のポスターと資料。研究内容と小原センパイの熱意を取材した。

地元、川内川の歴史に興味を持った小原センパイ。

「川内川は歴史的に見て、何度も氾濫してきました。しかし最近は大きな氾濫は起こっていません。その理由は何か、そして理由が無いのなら、警戒する必要があると思って川内川について調べてみることにしました。」

結果、それまでの川内市民の苦勞の歴史が見えたそうです。

「川内では大きな被害が二度と起こらないようにと、川内の治水事業を行っていました。たくさん事業がなされていましたが、特に印象に残ったのは川を広げることです。それにより水勢は弱まり、氾濫を防げます。」

「川を広げるって、掘ったんですか？」

「はい。川を広げるため掘るのには大変な労力が必要です。川の底まで掘って川の体積も大きくしますが、一つ問題を挙げると、川の生態系への影響です。海の水が入ってきて川の魚が死んでしまします。」

「川内川ってちよつとしょっぱいんですね。」

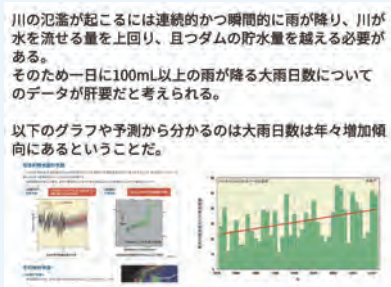


小原センパイは調査結果をふまえて、未来の薩摩川内市の気象をグラフを使って予想した。

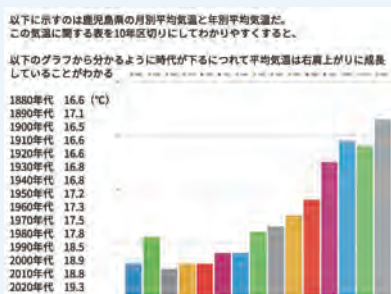
「相関図を使って今後降水量が増えて川が氾濫するか予想しましたが、今後川の水が氾濫することはよっぽどの例外が無い限り起こらないと考えました。」
「私たちは安心して川内に住めますね。」



↑センパイが作成したポスター
長い！他のセンパイの1.5倍



↑↓スライド資料の一部
全部で42枚！！



「友達にも多いって言われましたが、自分の身近なことで興味を持ったことを深く調査して、とても楽しかったです。自分で予想したり根拠を見つけられることは良い経験になりました。分かりやすくグラフにまとめるのは大変でしたけど。」

川内川はとても大きく、氾濫によつて被害を受けていたが、先人たちの知恵と努力によつて今後は安心して暮らすことができるだろう。と小原センパイは予想する。自分の研究に熱中した小原さんの話や資料は彼の熱意を物語っているのである。

小原さんのスライドの数は、今まで取材してきたセンパイの中でも非常に多い。

ワレワレも語りたい

—れいめい教職員コラム—

教職員達が、毎号交替で書いていくリレーコラム。内容は、勉強のことから趣味のことまで様々である。

「高校入試のその先へ」

高校入試まで数か月となり、コツコツと学習に励んでいることと思います。今回は、高校入試のその先の大学入試の話をしてみたい。その中で数学の試験について、今のうちから知ってほしいことを伝えたい。

大学へ行くために多くの受験生が大学入学共通テストを受験します。2022年の共通テスト数学Aの試験では、平均点が38点でした。これまでの平均点は50〜60点台であることを見れば難易度が大きく上がったことがわかれると思います。どんな問題が出たかという点、2022年では地図の縮尺に関する問題が出題され、2021年には100m走やたこ焼き販売の問題が出題されるなど問題集で見たことがない問題が増えました。また、問題文が長くなり、題材も多様化しました。

将来、大学入試を受験する生徒もいると思います。今からできることは、初めて見る問題に対応する力をつけること。そのためには基本事項を覚えておくだけではなく、その内容をきちんと理解する必要があります。パターンで解くのではなくなぜそうなるのかを考える。また、いろいろなテーマに対応できる読解力が必要となります。そのような力は全教科で養うものなので、どの教科を学習するときも暗記だけではなく意味を理解することを意識してください。

高校入試のその先を見据えて学習し、夢を叶えてください。



数学科教諭・1年生担任

小出 昌一郎

担当教科：数学

趣味：スポーツ

好きな麺：みそラーメン